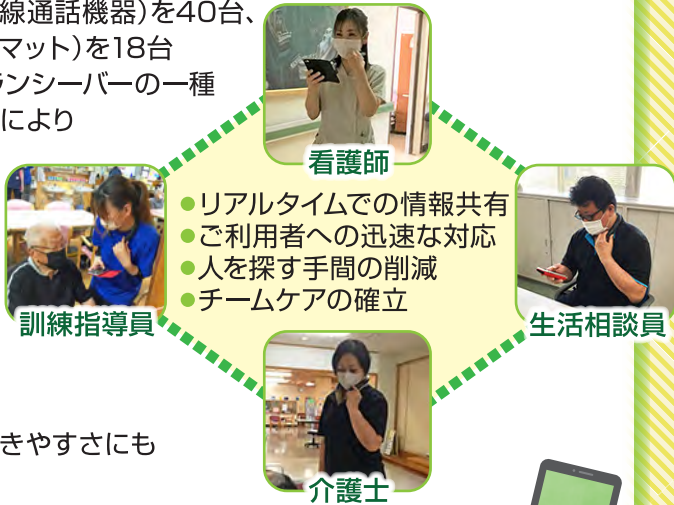


ほのぼのTALK(インカム)、新型ベッドセンサー Vital Beats(バイタルビーツ)を追加導入しました!

吾郷会施設

ICT活用でケアの質向上・業務効率化を推進中～

この度、『島根県介護ロボット等導入支援事業』の補助金下記事業において、吾郷会施設4サイトにインカム(無線通話機器)を40台、バイタルビーツ(多機能型センサーマット)を18台追加導入しました。インカムはトランシーバーの一種であり、リアルタイムでの情報共有によりご利用者への迅速対応など業務効率が大幅にアップしています。新型バイタルビーツについてもベッド設置のセンサーにより見守り機能が追加されさらに使いやすくなり、効率的な巡回や情報の一元化が図られケアプランの質が向上します。さらには介護事故予防や職員の働きやすさにもつながっています。



- リアルタイムでの情報共有
- ご利用者への迅速な対応
- 人を探す手間の削減
- チームケアの確立

事業名: 令和4年度島根県介護ロボット等導入支援事業
 事業内容: ほのぼのTALK及びバイタルビーツ設置、通信環境整備
 事業費総額: 9,895,600円
 補助額: 6,338,000円

施設名称(施設所在地): 社会福祉法人吾郷会 特別養護老人ホーム双葉園
 社会福祉法人吾郷会 特別養護老人ホームハートランド双葉園
 社会福祉法人吾郷会 特別養護老人ホームサンデイズ双葉園
 社会福祉法人吾郷会 養護老人ホームまほろば大和

完了年月日: 令和5年3月24日

お食事探訪

第2回

ハートベーカリー

毎月、第4水曜日は手作りパンの日です。担当が月毎のメニューを考えており、好評をいただいております。

大和サイト



ピザパン

前日に生地を作り、一晩寝かせてから焼き立てパンを提供!



手作りメロンパン



あん餅きなこのパンディング

おいしいよ～



体 Health

何の前ぶれもなく 危険な 発症する

「大動脈解離」

突然、胸や背中に激しい痛みが

大動脈解離。最近、芸能人がこの病気で亡くなったこともあり、耳にしたことがある方も少くないでしょう。

大動脈とは、心臓からの血液を全身に運ぶ大本の血管で、3層の膜からできています。何らかのきっかけで、そのうちの真ん中の層の膜に血液が流れ込んで、層の構造が別々にはがれていく(解離していく)のが**大動脈解離**です。

大動脈解離には前兆といわれるものはありません。解離が起こった範囲に応じて、突然、胸や背中にこれまで経験したことがないほどの激しい痛みが起こります。本来流れ込むべきではない血管の層の間に血液が溜まることによって、大動脈が破裂することもあります。

大動脈が破裂すると、病院到着前に命を落とす患者は**6割**。破裂しなくても、治療せずに裂けたまま放置すると、**発症後48時間以内に50%、1週間以内に70%、2週間以内に80%が亡くなる**という大変危険な病気です。



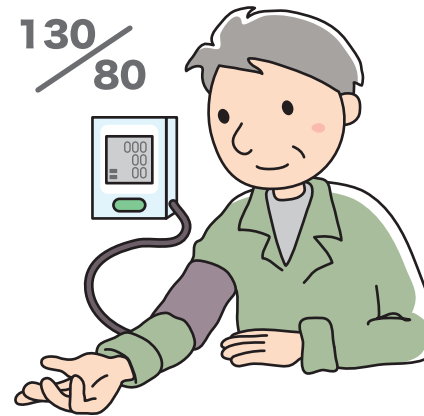
高血圧が重要な危険因子

何の前ぶれもなく発症する**大動脈解離**ですが、大動脈にかかるストレスの大きさと大動脈の壁の強さのバランスが崩れることによって起こると考えられています。大動脈にかかるストレスが大きくなる原因としてよく知られているのは**高血圧**です。**発症者の3人に2人は高血圧の既往がある**という報告もあります。

ほかにも**動脈硬化、高脂血症、糖尿病、睡眠時無呼吸症候群、喫煙、ストレス**、そして先天的な遺伝性疾患である**マルファン症候群**などが原因として考えられます。

大動脈解離を予防するには、一番の危険因子である血圧の管理を日頃からしっかり行うことが大切です。食事、運動、ストレスなどの生活習慣に注意し、血圧が高い状態が続くときは適切な治療を受けるようにしましょう。

もし胸や背中に急に激痛が生じたら、ためらわずに救急車を呼んでください。



暮 Life

なるほど!納得!!生活情報

いつ起こるか分からない 災害

日頃からの 備えが大切

●今、見直しておきたい防災対策●

最近、地震や豪雨、台風などの自然災害が多発しています。災害のニュースなどを耳にすると防災意識は高まるものの、しばらくするとつい気が緩んでしまっていないでしょうか。災害が起こってからでは遅すぎます。いつ起こるか分からない災害だけに、普段から万が一に備えて準備をしておくことが大切です。そこで、改めて家庭でできる防災対策を見直してみよう。

- ◆食料や飲料水などを、備蓄用として1週間から10日分、持ち出し用として最低3日分ほど用意しておく。
- ◆防災グッズをリュックサックなどに入れ、玄関など目に付きやすい場所に置いておく。市販されている防災セットに、さらに必要なものを加えていく方法も。
- ◆家の中に危険箇所がないか点検し、家具の転倒や物の落下の防止対策をする。
- ◆家族の役割分担や、家族が離ればなれになったときの連絡方法、避難場所などの確認をしておく。
- ◆スマホに災害情報や安否確認ができる防災アプリをインストールしておく。



- ◆非常食(調理が不要、持ち運びが可能、常温保存が可能、賞味期限が半年以上のもの)、飲料水(大人一人当たり1日3リットルが目安)、缶きり、栓抜き、紙皿、紙コップ、水筒、カセットコンロなど
- ◆携帯ラジオ(予備電池は多めに)
- ◆モバイルバッテリー(スマホ等の充電用、日頃から充電を満タンに)
- ◆懐中電灯(できれば一人1台)、ろうそく(太くて短いもの)
- ◆救急用品、医薬品、持病のある人は常備薬(最低1週間、予備の薬も含めて2～3週間分用意しておく)と安心)
- ◆貴重品(現金、預金通帳や印鑑、免許証、健康保険証、権利証書など)
- ◆衣類(下着、上着)・生活日用品(タオル、ティッシュ、洗面用具、雨具、生理用品、マッチ、ライターなど)



※防災グッズの中身は定期的に点検、交換しましょう。